

全日本実業柔道団体対抗大会報告書

総合警備保障が2年ぶり3度目の優勝
女子はコマツが2年連続6度目のV

厚生労働大臣杯争奪第58回全日本実業柔道団体対抗大会は、6月7日(土)、8日(日)の両日、記念すべき第1回大会(昭和26年)の開催地横浜市で開催された。会場は数々のスポーツ大会やイベント開催で名高い「横浜文化体育館」。本大会の会場としては、昭和40年第15回大会以来2度目となる。

参加チームは、128チーム。(男子110チーム、女子18チーム)。生憎、北京オリンピック代表選手は欠場したが、スーパースターの井上康生選手(総合警備保障)の現役最後の試合とあって、会場は30社を超える



開会式であいさつする阿南副会長

マスクの取材でごった返し、観客の大
声援は館内を揺るがした。

開会式では、年間最優秀選手の表彰があった。宮崎輝杯は世界選手権リオデジャネイロ大会無差別級優勝、平成19年度全日本女子柔道選手権優勝の塚田真希4段(総合警備保障)が2度目の受賞。永野重雄杯は平成19年度全日本選手権優勝の鈴木桂治5段(平成管財)が4度目の栄誉。尚、鈴木選手は欧州合宿中につき欠席。同時に功労賞(15回出場)の表彰も行われた。(別記参照)

初日は、男子第三部で開催地特別参加の神奈川県警察Aが同じく神奈川県警察Bを1-0で退けて優勝した。

女子第一部は4チームでリーグ戦を戦い、3チームが勝点、勝数共、同数となる混戦となり、負数で下回るコマツが2年連続6度目の優勝旗を手にした。

最終日、男子第一部は総合警備保障が、この大会を限りに引退する井上康生選手らの活躍で、2年連続決勝戦進出した了徳寺学園を2-1で降し、2年ぶり3度目の優勝を果たす。同時に、井上選手は見事有終の美を飾った。

男子第二部は期待の新人に重量級を揃

えた京葉ガスが九州電力Aを4-1の大
差で圧倒し、第二部で2度目の優勝を果
たす。来年はこの2チームに加え、準決
勝戦進出の東レ滋賀、東芝の4チームが
第一部出場権を獲得。

女子第二部は了徳寺学園と自衛隊体育
学校との決勝戦になり、代表戦が延長戦
までもつれる接戦となったが、自衛隊体



開会式

育学校が了徳寺学園を降して初優勝。
来年度の大会は6月6日(土)、7日
(日)、福岡市民体育館に於いて挙行され
る。昭和41年に九電記念体育館で挙行さ
れた第16回大会から実に43年ぶり、2度
目の福岡市での開催となる。



選手宣誓をする角地信太郎選手(旭化成)

平成19年度 年間最優秀選手

(永野重雄杯) 鈴木桂治(平成管財)

(宮崎輝杯) 塚田真希(総合警備保障)

功 労 賞 (15回出場)

石井孝敏(帝人)

濱田泰孝(三菱化学物流)

男子第一部

総合警備保障3度目のV、 有終の美を飾った井上に 館内から惜しみない大声援

総合警備保障対了徳寺学園Aの決勝戦。総合警備保障は連覇を狙う旭化成Aを2-1、了徳寺学園Aは日本中央競馬会を3-1で降しての決勝戦進出。共に苦戦が予想された強豪を次々に倒し、意気あがる両雄の対戦。



井上 横四方固一本で有終の美を飾る

尚、試合時間は、男女とも第一部は5分で行われる。その他の部は4分間。先鋒戦は、村上左、森本右のケンカ組み手の戦い。開始33秒、村上は左小外刈で有効を奪う。村上は早々のポイント奪取で慎重を期し、以後は無理をしない。リードされた森本はこれを挽回すべく、盛んに仕掛けるも決め手を欠く。結局、村上の逃げ切りが功を奏し、総合警備保障が先行。

次鋒戦。右組み同士、同じような体型の両者は、中盤までは相譲らぬ攻防を見せる。後半は、飛塚が盛んに今井の懐に飛び込もうとするが、今井もこれに備えて隙を見せず、飛塚の戦法も不発気味。今井は余り無理をせず。飛塚は先鋒戦の失点挽回を果たせず、引分ける。

中堅、井上の登場に館内は異様なムードに包まれる。井上は引き手を狙うが、左組みの佐藤はこれを嫌って組ませず。佐藤は時折巴投を仕掛けるが効果なし。中盤に入り、井上は引き手を取り始めるが、腰痛をおして出場の井上は技の仕掛けを逡巡する様子。3分25秒にようやく必殺の内股を放てば、佐藤は大きく宙に舞うも惜しくも引き手が切れ、肩から落ちて効果にとどまる。終盤になり、井上は巴投に來た佐藤を巧みに裏返して、4分31秒に肩固で抑える。クライマックスを迎えて館内は興奮の坩堝と化す。最後は横四方固に変化し一本。井上、最後の試合を有終の美となる一本勝で飾ると共に、チー



男子第一部優勝 総合警備保障チーム

ムの2年ぶりの優勝を大きく引き寄せた。副将戦は、両者左組み同士。序盤は両者互角で相譲らず。しかし、時間の経過と共に矢寄の攻勢が強まり、小野は防御の姿勢となつて、3分13秒指導1、4分50秒には指導2まで受ける。

大将戦。生田右組み、中野左組みのケンカ組み手。生田は得意の内股で再三中野を宙に舞わせるが、今一つ決めに欠ける。次第に疲労の色を見せ始めた生田は、

技を繰り出すものの自ら潰れて畳に伏せる。しかし、攻める手立てのない中野は、終盤は安全運転に切り替えた生田を追い込まず、引分け。

結局、井上の一本勝が勝負の決め手となり、総合警備保障が2年ぶり3回目の日本一。総合警備保障の応援席は嘗て経験したことのないようなお祭り騒ぎ。

優勝監督コメント

総合警備保障(株) 小橋秀規

昨年は連覇を果たせず、非常に悔しい思いをした。今年は部員全員が王座奪還に賭ける強い思いと、今大会が引退試合となる井上康生を「最高の形で送り出そう」という熱い気持ちを重ね合わせ、一致団結して試合に臨んだ。初戦から厳しい戦いの連続だったが、それを乗り越えられたのも井上と同じ年の近野貞治主将・生田秀和を中心としたチームワークがあったからだと思う。会社のバックアップと選手達の頑張りから感謝したい。

男子第一部成績表

優勝 総合警備保障
準優勝 了徳寺学園 A
第3位 旭化成 A
第3位 日本中央競馬会



了徳寺学園B、アルゼ、日本通運、セコムの4チームは
次年度第二部に降格する

【準決勝】

第1試合

旭化成 A 1-2 総合警備保障
塘内将彦 5段 —×— 村上和幸 3段
大鋸新 5段 支釣込足 生田秀和 5段○
齋藤制剛 4段 —×— 今井敏博 3段
○高井洋平 4段 内股 小野俊教 3段
谷口 徹 3段 横四方固 井上康生 5段○

第2試合

了徳寺学園 A 3-1 日本中央競馬会
○中野 竜 3段 優勢勝ち 立山広喜 4段
矢寄雄大 5段 —×— 片渕慎弥 4段
○佐藤武尊 3段 優勢勝ち 向川 肇 3段
○森本翔太 3段 横四方固 佐藤充弘 3段
飛塚雅俊 4段 大外刈 鈴木 龍 4段○

【決勝】

総合警備保障 2-1 了徳寺学園 A
○村上和幸 3段 優勢勝ち 森本翔太 3段
今井敏博 3段 —×— 飛塚雅俊 4段
○井上康生 5段 横四方固 佐藤武尊 3段
小野俊教 3段 優勢勝ち 矢寄雄大 5段○
生田秀和 5段 —×— 中野 竜 3段

優秀選手

〔男子〕

第一部

井上康生 (総合警備保障)
村上和幸 (総合警備保障)

第二部

矢寄雄大 (了徳寺学園)
高井洋平 (旭化成)
鈴木 龍 (日本中央競馬会)
市川裕治 (京葉ガス)
紺野大輔 (京葉ガス)
山本泰三 (九州電力)
佐多俊彦 (東レ・滋賀)
奥井真也 (東芝)

第三部

平澤武夫 (神奈川県警察 A)
小塚義隆 (神奈川県警察 A)
藍 健太郎 (神奈川県警察 A)
阿部貴宏 (了徳寺学園)
高橋光一郎 (戸高鋳業社)

〔女子〕

第一部

杉本美香 (コマツ)
宇高菜絵 (コマツ)

第二部

山岸絵美 (三井住友海上火災保険)
國原頼子 (自衛隊体育学校)
池田ひとみ (自衛隊体育学校)
宮本樹理 (了徳寺学園)

男子第三部

地元特別参加の神奈川県警察が

A・Bチームとも群を抜く実力を発揮

決勝戦は、Aチームが貫禄を見せて優勝

71チームでの優勝争い。内、地元特別参加は7チーム。決勝戦は神奈川県警察同士の対戦。両チームは、準決勝戦で実業チームの強豪戸高鉦業社、了徳寺学園を共に一蹴して決勝戦で対戦。

先鋒戦。小塚がやや押し気味に試合を進めるが、共に消極的とみなされ59秒に両者指導1、2分30秒には両者指導2を受け、引分。

次鋒戦は、左右のケンカ組み手の両者、単調な攻防が続く、46秒指導1、1分25秒指導2、2分27秒には指導3まで受けて引ける。

中堅戦。決勝戦まで全勝と、他を圧する実力を見せる145kgの巨漢平澤は、試合開始早々、まず左襟を掴み、次に右襟を握った瞬間、今本を両腕で持ち上げ、左膝辺りに深く小外刈を仕掛け、今本を大きく浮かせた後、畳に叩き付ける豪快な一本。(開始10秒)

副将戦。尻を向けた状態で相手に相対し、機を見て回り込みながら相手の懐に飛び込もうとする変形柔道の庄司に対し、菊地はこれを見透かして組み合わない。こ

の奇妙な攻防に終始し、両者2分30秒指導1、3分36秒指導2。更に、終了間際の3分58秒に両者指導3を受ける。

大將戦は、左右のケンカ組み手の戦い。引き手の探り合いから、豊田は前に圧力を掛けるが、野村は回り込んでこれをおかす。2分19秒、組み合わせない両者に指導1。中盤以降は両者組み合う。前に出る野村に対し、これを豊田がしのぐ流れ。結局、両者見るべき攻防もなく引分ける。

同じチーム同士による単調な決勝戦は、貫禄のAチームが制し、優勝を飾る。



男子第三部優勝 神奈川県警察チーム

【決勝】

神奈川県警察 A	1-0	神奈川県警察 B	
小塚 義隆	5段	高井 健介	5段
松本 勇治	6段	藍 健太郎	3段
○平澤 武夫	6段	小外掛	3段
庄司 武男	5段	菊池 嘉幸	5段
野村 洋二	5段	豊田 虎徹	4段

男子第三部成績表

優勝	神奈川県警察 A	第3位	戸高鉦業社
準優勝	神奈川県警察 B	第3位	了徳寺学園

以上の4チームは次年度第二部に昇格する



女子第一部

コマツ、3チーム同点の接戦を負数の数で制し、2年連続6度目の優勝を飾る

4チームのリーグ戦で行われた女子第一部は、3強が激しく競り合う。

第2試合 セコム 0-2 コマツ

先鋒戦は共に右組み。1分5秒宇高が左組みに変えた滝口の左足を右小外掛で横転させ有効。次鋒戦は、峯田が右組み、宝が左組みのケンカ組み手。体格に勝る峯田に対し、宝は激しい動きの中で勝機を伺うも両者譲らず引分ける。中堅の堀越、岩田共に左組み手同士ながら、激しい組み手の攻防が続くも、共に技の決定打を欠いて引分。植木右、岡左の副将戦も両者立ち技、寝技共に攻め手を欠き引分ける。大将戦。鳥谷部は果敢に攻め、3分3秒防戦の杉本に指導1。しかし、勢い込んで片襟から杉本の右へ回り込もうとした鳥谷部に、同じく片襟のまま仕掛けた杉本の右大外刈がタイミングよく決まり、一本。

第3試合 三井住友海上 1-2 セコム

先鋒戦。山岸は2階級上の佐藤に振り回されるが、両袖を持つ変則な組み手から多彩な技を繰り出す。両者にそれぞれ指導1で引分け。次鋒戦は、同一階級、共に右組みの両者の対戦。早々より徳久が盛んに攻撃を加え、2分12秒峯田に指導1。残り18秒には、徳久は体を沈め、左手で峯田の右脚を掴み、後ろに倒して一本。1点先攻して迎えた中堅戦。上野順は早々より積極的に攻める。ところが、気迫が空回りし2分51秒脇が甘くなった所へ、堀越が体落気味に体を沈めて片襟から担ぎ上

げると、上野の体は大きく放物線を描いて畳に沈む。副将上野巴は積極的に前に出て、1分47秒植木に指導1、3分42秒には膝車で効果。しかし、残り22秒上野の左内股を堀越がすかして有効を奪い、逆転する。大将戦。清水は挽回を期して盛んに攻撃するが、鳥谷部はうまく捌いて引分ける。セコム、逆転で勝ち点を獲得する。

第6試合 三井住友海上 2-0 コマツ

先鋒戦。2分40秒山岸が巴投で効果。次鋒戦は共に右組み、両者は奥襟を狙う激しい柔道を展開するが、決め技を欠き引分け。中堅の岡は右組みから盛んに攻撃するが、貝山も左組みから応戦し、共に不十分で引分ける。副将戦。共に左組み。小兵の



女子第一部優勝 コマツチーム

岩田が果敢に内股で攻める。一方、体格で勝る上野巴は組み止めての払腰や支釣込足。しかし、共に決定打を奪えず引分け。大将戦。左組みの上野順は得意の体落で杉本を翻弄。1分24秒に杉本に指導1。結果、コマツ、三井住友海上、セコムの3チームの三つ巴戦は、最小負数のコマツが制す。

優勝監督コメント

コマツ 松岡義之

今年は、昨年のチームの軸となった選手達の欠場により、かなり厳しい試合展開が予測されましたが、主将の宝寿栄選手を中心に、チームが一丸となり2連覇を達成する事ができました。最終的に6名のチーム編成になった為、57kg級の岩田千絵選手が70kg級に出場しましたが、最大限の力を出し切り、優勝に貢献してくれました。僅差が多く、非常に厳しい対戦が多かったのですが、一人一人が最後まで集中力を切らさず、失点を最小限に抑えた事が今回の優勝に繋がったと思います。来年は、もう一度完全優勝を目指したいと思います。

【主な対戦結果】

セコム	0-2	コマツ	
滝口並穂	3段 優勢勝ち	宇高菜絵	2段 ⊖
峯田智栄	2段 —×—	宝寿栄	2段
堀越穂波	3段 —×—	岩田千絵	3段
植木順子	2段 —×—	岡明日香	3段
鳥谷部真弓	2段 大外刈	杉本美香	2段 ⊕
三井住友海上	1-2	セコム	
山岸絵美	2段 —×—	佐藤佳江	2段
○徳久 瞳	2段 朽木倒	滝口並穂	3段
上野順恵	2段 背負投	堀越穂波	3段 ⊕
上野巴恵	2段 優勢勝ち	植木順子	2段 ⊖
清水千晶	2段 —×—	鳥谷部真弓	2段
三井住友海上	2-0	コマツ	
○山岸絵美	2段 優勢勝ち	宝寿栄	2段
徳久 瞳	2段 —×—	宇高菜絵	2段
貝山仁美	3段 —×—	岡明日香	3段
上野順恵	2段 —×—	岩田千絵	3段
○上野巴恵	2段 優勢勝ち	杉本美香	2段

女子第一部成績表 (リーグ戦)

	ヤックス ケアサービス	三井住友海上	セコム	コマツ	勝 負 日勝日負日分	順 位
ヤックス ケアサービス	△	△	△	0勝3敗	4	
三井住友海上	○	△	○	2勝1敗	2	
セコム	○	○	△	2勝1敗	3	
コマツ	○	△	○	2勝1敗	1	

女子第二部

決勝戦初進出の自衛隊体育学校が

接戦を制して初優勝

3年連続優勝を目指した了徳寺学園は最後に涙を飲む

エントリーは14チーム。決勝戦は、二連覇中の了徳寺学園と有力新人2選手を擁し、破竹の進撃を重ねた自衛隊体育学校との決戦となった。

先鋒戦。左組みの宮本は序盤から左で小島の奥襟を掴み、内股で盛んに攻める。ところが、2分15秒、宮本がやや強引に内股に入ると右組みの小島は右小外掛から振り回すように宮本を倒し、効果を先取。不覚を取った宮本はその後も攻め続け、残り15秒には内股でフェイントを掛け、後ろに大内刈で刈り込んで技あり。逆転した宮本は、猶も時間切れ寸前、内股を小外掛で返そうとする小島の裏を掻き、大内刈で効果を奪う。

中堅戦。新人同士、同一階級同士の一戦は、激しい技の応酬となる。42秒、長身の國原は、今井が出ようとすると右片襟から小内刈で技ありを奪う。その後、両者激しく攻め合うものの、徐々に反撃の執念を見せる今井の攻勢が強まり、残り9秒に國原に指導1となるもそこまで。自衛隊体育学校がタイに持ち込む。大將は、同じ78kg級同士、ケンカ組み手。組み手の攻防に終始し、左引き手を握った長瀬が攻勢に出るが、対する池田も負けるも決定ポイントを奪えず引分け、代表戦となる。

代表戦には、了徳寺学園は長瀬を、自衛隊体育学校は國原を送る。代表戦は大將戦に続いての試合となる長瀬が、疲れも見せず立ち技、寝技で優勢に試合を進める。國原に分が悪いものの、長瀬が決定打を欠き、引分ける。

続いて、ゴールデン・スコア方式での延長戦に入る。國原が残る体力を振り絞り、タックルなどを仕掛ける。その都度、長瀬に潰され畳に伏せる國原に消耗の色漂う。疲れを表に出す國原のスタミナが尽きると予想させたが、1分59秒、逆に國原は最後の力を振り絞り、右片襟から背負投気味のフェイントから小内刈を仕掛けると、長瀬はたまたらず尻餅を着く。この瞬間に効果が宣告されて、熱戦が終了。



女子第二部優勝 自衛隊体育学校チーム

自衛隊体育学校が強敵了徳寺学園を降し、嬉しい初優勝、優勝旗を手中に。長時間奮闘の長瀬の顔に落胆の色濃く浮かぶ。

優勝監督コメント

自衛隊体育学校 酒井英幸

昨年も了徳寺学園に敗れていたもので、今年是非でも勝ちたかった。戦力的には、今年は國原と池田という有望選手が加入してくれた事もあり、ほぼ了徳寺学園と互角という状況であった。全員がよく頑張ったが、その中でも國原の活躍が際だっており、全日本強化選手の今井、長瀬に競り勝ち、素晴らしい精神力の強さを見せてくれた。昨年の雪辱に燃えてスタッフや選手が一丸となって戦ったのが勝因ではないかと思う。

今後は、選手を更に増強して一部への出場と優勝を目指していきたい。

女子第二部成績表

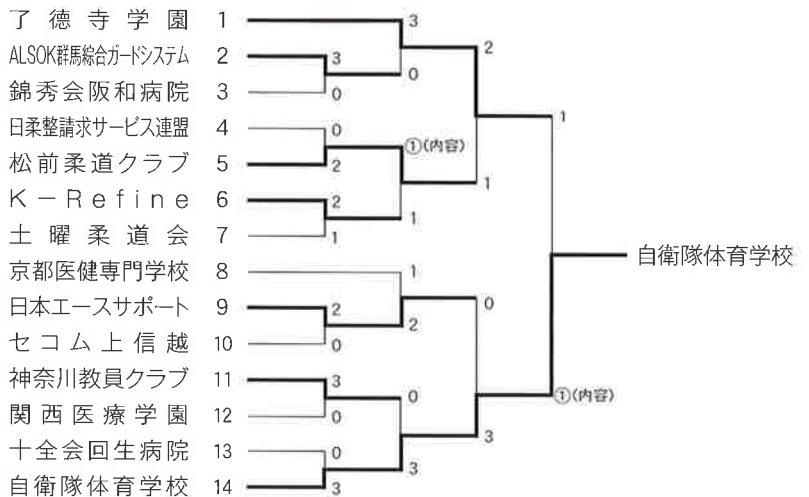
優勝	自衛隊体育学校	第3位	松前柔道クラブ
準優勝	了徳寺学園	第3位	日本エースサポート

【準決勝】

了徳寺学園	2-1	松前柔道クラブ
○宮本樹里 2段	小外掛	富田悠香 3段
○今井優子 3段	大外刈	石井久美子 3段
長瀬めぐみ 2段	優勢勝ち	北田裕美子 3段⊖
日本エースサポート	0-3	自衛隊体育学校
平岡由紀 2段	優勢勝ち	小島愛子 2段⊖
武田三友紀 2段	合せ技	國原頼子 2段○
中井由佳 3段	背負投	池田ひとみ 2段○

【決勝】

了徳寺学園	1-①	自衛隊体育学校
⊖宮本樹里 2段	優勢勝ち	小島愛子 2段
今井優子 3段	優勢勝ち	國原頼子 2段⊖
長瀬めぐみ 2段	——	池田ひとみ 2段
	(代表戦)	
長瀬めぐみ 2段	優勢勝ち	國原頼子 2段⊖



第58回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプション開催

6月7日(土)18時30分より横浜中華街の一角、重慶飯店別館1F慶華の間において、第58回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプションが盛大に行われた。

当日は、(財)全日本柔道連盟の嘉納行光会長や山本正人神奈川県教育長始め、多数のご来賓の方々や大会役員、競技役員、並びに地元関係者など総勢160余名の参加があり、歓迎ムード漂う中、和やかな雰囲気でのレセプションが挙行された。

山口信夫会長の挨拶に始まり、山本正人神奈川県教育長、杉山彰横浜市民活力推進局副局長の歓迎のことば、ご来賓の紹介と続き、昨年の開催地広島県代表、西畑耕治広島県柔道連盟副会長に感謝状の贈呈の後、山下泰裕神奈川県体育協会会長のご発声による乾杯で祝宴に入った。

宴が始まると、横浜中華街らしく中国の獅子舞が登場。賑々しい舞に各テーブルは一層和やかな談笑に包まれる。そして、参会者一同、次々に運ばれる本場の中華料理と美酒に舌鼓を打ち、会場内は親睦ムード一色に染まる。そして宴たけなわの頃、来年の開催地福岡を代表して小山一民九州実業柔道連盟副理事長(九州電力柔道部長)が来年の決意を込めてご挨拶された。

会場の至る所で全国各地のお国言葉が飛び交う中、高橋 茂大会実行委員長の中締めのご挨拶で散会となる。その後もテーブルのここかしこで、地方の実業柔道連盟や同じ企業の関係者が名残の宴を続け、夜の更け行くまでミナト横浜の一夜を満喫した。



山口信夫会長のあいさつ

山本正人神奈川県教育長のあいさつ

「定時総会」開催される

第47回定時総会及び平成20年度理事会は、平成20年6月6日(金)午後16時30分からホテル横浜ガーデン4F会議室にて開催された。総会は22社の加盟企業中、142社の出席(委任状提出分含む)、理事会は60名の定足数中、55名(委任状提出分含む)の出席により成立。議長には阿南惟正副会長が選出され、第1号議案から第5号議案について満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成19年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成19年度収入支出決算承認の件
- 第3号議案 平成20年度事業計画承認の件
- 第4号議案 平成20年度収入支出予算案承認の件
- 第5号議案 平成20年度役員改選の件

2008年北京オリンピック代表選手 (当連盟所属)

(男子)

60kg級



平岡拓晃
(了徳寺学園)

66kg級



内柴正人
(旭化成)

73kg級



金丸雄介
(了徳寺学園)

81kg級



小野卓志
(了徳寺学園)

90kg級



泉 浩
(旭化成)

100kg級



鈴木桂治
(平成管財)

(女子)

48kg級



谷 亮子
(トヨタ自動車)

52kg級



中村美里
(三井住友海上火災保険)

57kg級



佐藤愛子
(了徳寺学園)

63kg級



谷本歩実
(コマツ)

70kg級



上野雅恵
(三井住友海上火災保険)

78kg級



中澤さえ
(総合警備保障)

78kg超級



塚田真希
(総合警備保障)

○発行日 2008年7月20日 ○発行 全日本実業柔道連盟
○発行人 事務局長 郷田博史 ○印刷 ダイコロ株式会社

写真提供：(財)全日本柔道連盟